

標準委員会 システム安全専門部会 炉心燃料分科会  
第 8 回 (S1SC8) 議事録

日 時： 2012 年 5 月 28 日(月) 13 : 30～16 : 40

場 所： 東京都 原技協 A、B 会議室

出席者： 阿部(弘)主査 (東北大)、馬場副主査 (JNES)、矢野幹事 (原技協)、  
渡辺代理(山中 BWR 幹事:東電)、真寄 PWR 幹事(関電)、小川委員(MHI)、  
岩本委員(GNF)、加藤委員(東芝)、河村委員(電中研)、園田代理(北島委員:電中研)、  
杉山委員(JAEA)、関委員(MNF)、扇柳代理(玉置委員保安院)、  
土内委員(NFI)、長谷川委員(東大)、久持委員(日立 GE)、福山委員(原電)、  
山本委員(名大) 計 18 名

常時参加者：久保、谷口 (NFI)、北嶋(原電)、高橋代理(高野:MNF)、中島(JNES)、  
平川(原技協)、徳永代理(近藤:日立 GE)、福田(MHI)、

傍聴者：黒瀬(電気協会)、金子(GNF)、工藤(JNES)、木下(NFI)、北野(東芝)

(敬称略)

議題

1. 出席者／資料確認
2. 第 7 回分科会議事録 (案) の確認
3. 人事について(案)
4. 炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の分科会審議の進め方
5. 炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の概要について
6. 今後の活動計画について
7. その他

配布資料：

S1SC8-1 第 7 回分科会議事録(案)

S1SC8-2 人事について (案)

S1SC8-3 炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の分科会審議の進め方(案)

S1SC8-4 炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の検討の進め方について(案)

S1SC8-5 「燃料システムの安全性を確保するために考慮すべき設計基準：2013」の  
概要

S1SC8-6 システム安全専門部会における標準策定スケジュール(2011 年度以降)

## 議事及び主な質疑応答

### 1 出席者確認

幹事より出席者数を確認し、本分科会の定足数を満たすことが報告された。

### 2 資料確認

幹事より議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

### 3 前回議事録(案)の確認について (S1SC8-1)

幹事より、第7回議事録(案)について報告し、承認された。

### 4 人事について(S1SC8-2)

幹事より資料 8-2 に基づき、委員の交代を報告し、全員の賛成により扇柳氏が委員として選任された。また、増原氏、北野氏、金子氏、木下氏の常時参加者への登録が承認された。

- ①退任委員 玉置等史
- ②新任委員 扇柳仁
- ③登録(常時参加者) 増原康博、北野剛司、金子浩久、木下英昭

### 5 炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の分科会審議の進め方について

#### (1) 分科会審議の進め方(案) (S1SC8-3)

幹事より、資料 S1SC8-3 に基づき、炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)が3編から構成されること、今後1篇/年の3年でそれらの策定を予定していること、及び今年度は本編の炉心燃料システム安全評価ガイドラインを4つのタスクに分けて主にメールベースで検討することを説明した。また、次項の(2)の検討の進め方も合わせて説明後、分科会としての今後の審議の進め方について議論を行った。その結果、4つのタスクを置いて、標準案を策定していくことが了承された。

#### (2) 炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の概要について (S1SC8-4)

福田氏より、資料 S1SC8-4 に基づき、炉心燃料システム安全評価ガイドライン(仮称)の検討の進め方について、対象範囲、意義メリット、作りこみ作業等について説明され、検討の進め方を議論した。

その結果、米国の SRP を参考しながら日本の規制に焼直し、解説に相違点を盛り込んで置くこと、標準案の名称は今後検討をしていくことが確認された。

- ・ 本ガイドラインのタイトルの名称は、システム安全専門部会でも指摘を受けたので、今後適切なものに変えていく。
- ・ 本ガイドラインは S1SC8-4 の表2にあるように、日本の規制の手引書なり指針がばらばらになっているのを、体系的、系統的な形で標準を作っていく。

#### (3) 「燃料システムの安全性を確保するために考慮すべき設計基準：2013」(仮称)の概要

福田氏より、資料 S1SC8-5 に基づき、燃料システムに関する標準(案)について、条項、

留意点、検討課題等について骨子案を説明し、議論した。

- Post-BT については 4.2 に標準として取り込んで、Post-BT 標準自体は 4.2 或いは熱水力の下位標準として残したほうが良い。
- 一番良い標準を作りたいため、先ず整理をし、追加するものについては国内の取扱いについて議論が必要、追加しなかったものについては、分科会で議論し、その理由も含め解説に書いていく。
- 安全解析で DBA の中としてどこまでやるのかとも絡み、評価を全部この中で見るとすると膨大に膨らみすぎてしまうので、切り分けが必要。
- 作ろうとしている体系の網羅性とか、1%歪等の要求している数値がこれで良いのかの議論をするのか、それとも整理学にするのか、それぞれのタスクで議論をやって、課題をきちんと抽出することとする。それから、SRP4.2 から日本型に書き換えていくときに、網羅性の観点から抜けてしまうことがないようにする。

#### (4) タスクの構成及び文案作成

各タスク設置及び各分冊の文案作成に関する議論を実施した。

- 国内外の規制の動き、最新知見の解説への取り込みも考慮してローリングしていかなければならないので、そのとき対応することとし、この 4 つのタスクに分けて検討を進めて行くこととする。

各タスクの主査及びメンバーについては、メールで承認を頂く。

主査の中には、委員でない方になって頂く可能性もあり、その場合には、先行して主査として勤めて頂くが、次回の分科会で推薦して、承認頂く。

## 6 その他

幹事より、3月の標準委員会に報告された今年度の標準策定スケジュールが報告された。(S1SC8-6)

次回は、8月20日に開催予定。

以 上